

# 令和4年3月期 決算概要

(第65期)

1. 決算取締役会開催日 令和4年6月 8日

2. 定時株主総会開催日 令和4年6月20日

決算期 年1回 3月31日

連結決算の有無 無

中間配当制度 無

会社名 江間忠木材株式会社

本社所在地 東京都中央区晴海3-3-3

<https://emachu.co.jp>

責任者役職名 経理部長

氏名 石黒 達也

TEL (03)3533-8221

## 3. 当期の業績 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(1) 経営成績 (注)記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

	売上高	対前期 増減率	営業利益	対前期 増減率	経常利益	対前期 増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
当期	15,730	(65.1)	1,123	(685.7)	1,153	(560.2)
前期	9,527	(Δ17.9)	143	(Δ10.5)	175	(Δ12.2)

	当期純利益	対前期 増減率	1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率
	百万円	%	円 銭	
当期	761	(530.8)	9,751.43	21.56%
前期	121	(Δ3.6)	1,545.99	3.88%

(注) 自己資本当期純利益率は、純資産の部合計の期首と期末の単純平均で除して算出しております。

## (2) 配当状況

	1株当たり 年間配当金	配当金総額	配当性向	純資産 配当率
	円	百万円	%	%
当期	4,930	384.54	50.6	9.9
前期	770	60.06	49.8	1.9

## (3) 財政状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
当期	8,752	3,900	44.6	49,993.95
前期	6,368	3,157	49.6	40,480.27

(注) 期末発行済株式数 当期 78,000株、前期 78,000株 (1単元の株式数 100株)

#### 4. 分野別商品売上高

区 分	主な取扱商品	前期		当期		前期比 増減率
		令和 2年 4月 1日から 令和 3年 3月 31日まで		令和 3年 4月 1日から 令和 4年 3月 31日まで		
		売上高	構成比	売上高	構成比	
製品	構造材・羽柄材・集成材用材他	百万円 4,971	% 52.8	百万円 8,387	% 53.7	% 68.7
原木		672	7.1	730	4.7	8.6
合板	針葉樹合板、特殊合板等	596	6.3	847	5.4	42.1
繊維板	パーティクルボード、MDF、ハード ボード	809	8.6	1,111	7.1	37.3
国産材		1,087	11.5	2,806	18.0	158.1
木造建築請負		723	7.7	1,219	7.8	68.6
その他商品	エステックウッド、漆喰、その他建材 等	563	6.0	521	3.3	△7.5
合 計		9,421	100.0	15,621	100.0	65.8

#### 5. 事業の経過及び成果

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のため1年のうち9か月間にわたり断続的に緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が出されたことや、世界的な半導体不足、サプライチェーンの混乱などの景気の下押し要因はありましたが、全体では持ち直しの動きが見られました。

しかしながら、年度後半には米国における好調な個人消費の影響からガソリン価格の高騰を始めとするインフレ懸念や日米の金利差を要因とした円安、更にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻が世界的なエネルギー価格の高騰と物流の混乱を引き起こし、依然として不透明な状況が続いております。

住宅市場につきましては、令和3年度の新設住宅着工戸数が86万5千戸(前年度比6.6%増)となり、2年連続で90万戸は下回ったものの、3年ぶりの増加となりました。その内訳は注文住宅等の持家が28万1千戸(前年度比6.9%増)、貸家が33万戸(前年度比9.2%増)、分譲住宅が24万8千戸(前年度比3.9%増)という結果となりました。

このような環境の中で、当社は『国内外の木材を活かし、より良い生活空間を提供し、社会に貢献する』をスローガンとして掲げ、幅広い商材を扱うことで、多様化するお客様のニーズに対応できる営業体制の構築に注力するとともに、江間忠グループの総合力を発揮した営業を強化してまいりました。また、ここ数年にわたり『国産材の取り扱い拡大』を進めてきた成果も着実に上がり、ウッドショックと呼ばれる輸入木材産地価格の高騰と調達難をこれまで培われた価格交渉力と営業努力で乗り越えてまいりました。同時に供給責任を果たすべく輸入木材の代替資材として国産材の調達、供給にも注力してまいりました。

これらの結果、当期の売上高は157億30百万円(前期比65.1%増)、経常利益11億53百万円(前期比560.2%増)、当期純利益7億61百万円(前期比530.8%増)と大幅な増収増益となりました。主要商品別の概況は次の通りであります。

##### 製品

現地挽き製品分野では、ウッドショックの影響で年初から現地価格は高騰、世界的なコンテナ不足も重なり、結果的に契約残の入荷遅れで木材相場上昇の恩恵を受けた形となりました。国産材製品においても価格高騰の影響を受けましたが、以前より全国の有力国産材製材工場との連携を強化してきたことが取扱数量の増加に繋がり、当分野全体の売上高は前期比68.7%増の83億87百万円となりました。

## 原木

原木分野は、アラスカからの配船が終了となり売上高は減少しましたが、アラスカ産スプルースの代替としてドイツからの供給を開始しました。また、米加材においては新たに新宮港揚げのビジネスを開始した結果、売上高は前期比8.6%増の7億30百万円となりました。

## 合板

合板分野は、グループ会社を主としたプレカット向け構造用合板ビジネスを引き続き各地域の顧客へと拡大させました。しかし、ウッドショックの影響を受けて大幅な値上げ相場となり、同時に供給不安も伴い納入数量は減少しましたが、売上高は前期比42.1%増の8億47百万円となりました。

## 繊維板

メラミン化粧板の販売は、ユニリン社製メラミン化粧板が大手キッチンメーカーにおいて新仕様(追加部材)向けに採用されたため売上高は大幅に増加しました。

タイのワナチャイ社でのJIS規格取得に関しては、コロナ禍で未だに取得計画が滞った状況ですが、ウッドショックによる価格高騰や欧州サプライヤー筋の供給不安も追い風となり契約数は増加しました。国産パーティクルボードの販売につきましては、メーカーの受注ストップなど供給難が続き、納入量は減少しましたが、大幅な値上げにより売上高は増加して、当分野全体の売上高は前期比37.3%増の11億11百万円となりました。

## 国産材

国産材は、国の国産材利用促進政策の流れに乗り、当社の取り扱いも各事業部へと広がり、国産材原木の大手集成材工場、合板工場向けビジネスも開始しました。更には江間忠ホールディングスが所有する山林からの原木出材も増加し、価格も上昇基調を続けており、当分野全体の売上高は前期比158.1%増の28億6百万円となりました。

## 木造建築請負

木造建築請負分野では、民間物件が新型コロナウイルス感染防止対策を受けての工事の中止や延期、計画自体の見直しもありましたが、当期における総完成物件数は昨年比で4割近く増加しました。特に学校や保育所施設関連が増えて42物件となり、売上高は前期比68.6%増の12億19百万円となりました。

## その他商品

主力商品のエステックウッドや不燃木材等のその他付加価値木材は民間・公共物件等での採用実績を積み重ねましたが、やはり新型コロナウイルス感染防止対策を受けての工事の中止・延期といった影響を受けて、売上高は前期比7.5%減の5億21百万円となりました。

## 6. 会社が対処すべき課題

すでに欧米では新型コロナ感染に対する活動制限の緩和が続いていますが、中国ではゼロコロナ政策による活動制限の強化により景気回復のペースは一層鈍化する様相であります。わが国の経済においても急激な円安や資源価格の高騰が企業収益に影響を及ぼしてきており、世界的なインフレ圧力は個人消費へも影を落とし始めております。

住宅業界におきましてもアジア諸国で新型コロナ感染が収束せず、未だ給湯器等一部の住宅機器に供給面での混乱が続いており、輸入木材に端を発したウッドショックは国産材にも影響を及ぼし、構造用合板の供給不足も解消されず価格面でも激しい高騰が続いております。一方、新設住宅着工数の推移を見ますと、都市部においては着工遅れから足元の需要は順調に見えますが、今年3月の新設住宅着工は持ち家が3月としては60年ぶりの低水準となるなど今後は住宅価格の高騰が購買意欲の低下に繋がることも考えられ、極めて先行きは不透明であります。

こうした状況下、当社は、諸要因のもたらす様々な影響と木材利用促進の流れを大局的・長期的に把握し、ウィズコロナ時代への転換と多様化するお客様のニーズに対応できる営業力の強化を図り、新たな業界の未来へ挑戦してまいります。

営業活動面では、今年度も『国産材の取り扱い拡大』を更に進めてまいります。世界的な需要増加と供給の逼迫がウッドショックの直接要因であったわけで、かつて、日本は世界有数の木材輸入国でありましたが、国土の7割が山林の木材資源大国でもあります。木材資源を有効利用することで地球温暖化防止に貢献することや低炭素社会づくりを進めていくことに結びつきます。

貿易・流通事業部門では、これまで培った世界中からの情報収集力とグローバル展開力を更に研ぎ澄ませて、特色のあるオリジナル商品の取り扱いに傾注してまいります。また、コンテナ不足と船運賃高騰で停滞した米国内向け国産杉フェンス材やアジア向け国産杉丸太の輸出に再度チャレンジする方針です。国内においては全国の国産材製材工場との連携を更に強化してビジネス拡大に繋がります。また、愛知県の地元有力流通加工業者との安定的な製材プログラムを構築して将来の核となる事業へ育てます。

コンストラクション事業部門では、木造建築事業部で人員増強を図ります。グループプレカット各社の大型木材加工機を最大限に活用して、大規模プロジェクトに向けた物件の取得を目指してまいります。また、新たな商品と内装市場の開拓に向け内装市場開発部を設置するとともに、需要が増加する不燃木材などの取り扱いに対応すべく、エコライフ事業部を高機能木材事業部に改称いたしました。SNS アカウントを開設するなどデジタルマーケティングを開始して新たな販路拡大を目指してまいります。

経営管理面では、お客様、取引先および従業員の健康、安全確保を最優先とした新型コロナウイルス感染防止対策を徹底させ、働き方改革における業務の効率化と健全な職場環境の構築に努め、SDGsやESGへの取り組みを図るとともにコンプライアンスを含めた一層の体制強化を進めてまいります。

江間忠グループは今年10月に創業99周年を迎えますが、来年の100周年、さらにその先の未来へとグループ各社一体となったオール江間忠の総合力と機動力を遺憾なく発揮して、社会への貢献と木材産業界の発展に寄与してまいります。

株主の皆様におかれましては、尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 7. 役員の異動

当社の取締役並びに執行役員の任期は1年であり、全員が任期満了となります。

### (1) 新任取締役（令和4年6月20日開催の定時株主総会及び取締役会で選任）

代表取締役会長	江間壮一
取締役社長	中稻八郎
取締役	江間亮三
取締役	伊藤泰彦

### (2) 新任執行役員（令和4年6月20日開催の取締役会で選任）

中稻八郎	（取締役兼社長執行役員）
志田義昭	
宮田雅夫	
長根 茂	
高橋信勝	
山城 登	
薮野英樹	
藤丸一郎	

## 8. 次期営業見通し

第66期（令和5年3月期）の営業計画は次の通りであります。

項 目	売上高	営業利益	経常利益
金 額（百万円）	14,530	366	352
当期増減率	Δ7.6%	Δ67.4%	Δ69.5%

以上